



## 今回はWORKS関係ということで物流業界におけるSDGsの取り組みを紹介します

### ●梱包資材の削減

物流業界では、数多くの梱包資材が発生します。これらの資材を削減したり、再利用が可能なものに切り替えたりすることで、SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」などに貢献することが可能です。具体的には、プラスチックの梱包材をやめてリサイクル率が高い段ボールに切り替える、オリコン（折り畳みコンテナ）や拠点間を行き来する通い箱などを活用するといった対策が該当します。

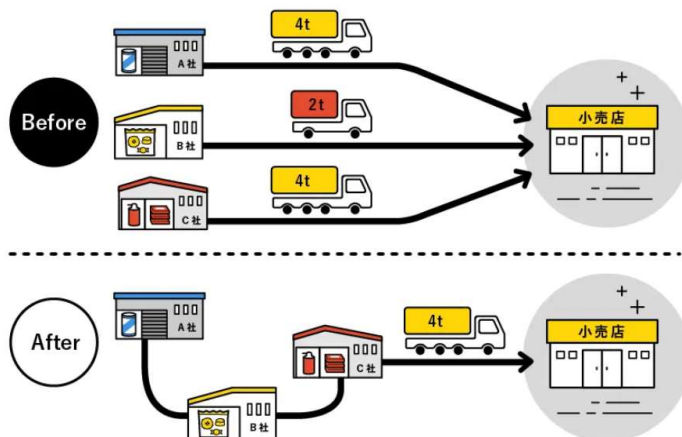


### ●モーダルシフト

モーダルシフトとは、これまでトラックなどの自動車で行っていた荷物の輸送を鉄道や船舶に切り替えることです。拠点間の距離が長い場合、すべてをトラックで運ぶのではなく、一部の道程を鉄道や船舶に切り替えることで環境負荷を低減することができます。貨物輸送による環境負荷を、極力小さくする取り組みです。

### ●共同配送

共同配送は、複数の事業者が共同で荷物を運ぶことを指します。例えば「複数のメーカーの商品を物流センターにまとめて一括で百貨店に出荷する」といった例が共同配送です。複数の企業がそれぞれトラックを手配するのではなく、行き先が同じ荷物を運ぶ荷主がトラックを1台にまとめることで、効率良く環境に優しい輸送が可能になります。



～編集後記～ 今年も暑い夏がやってきます！

エアコンの温度設定や、冷蔵庫はすぐに閉めるなど夏に取り組めるSDGsはたくさんありますが、適度な運動で暑さに強い体をつくることも熱中症予防と13番目の目標取組になります。Let's exercise！

### 生活者のサステナブル購買行動調査2023

2023年8月25日、博報堂の「博報堂SDGsプロジェクト」が「生活者のサステナブル購買行動調査2023」の実施レポートを公開しました。

○対象者：16～79歳の男女5156名

10代のSDGs「知名率」は91.2%に到達した。

「買い物の際に環境・社会に与える影響を意識しているか」という調査では、すべての年代で、環境・社会を意識した購買行動が徐々に拡大。特に、10～20代が昨年から大きく上昇していることがわかりました。購買行動の内訳をみると、10～20代（16～29歳）では、「不要になったがまだ使えるものは人にあげたり売ったりする」「新品を買わずに中古品を買う」「新品を買わずに借りたりシェアしたりする」といった「サーキュラー」や「シェア」に関する行動において、全体より10～20ポイント高くなっています。

「サステナブルな商品」についてイメージする形容詞でいちばん多かったのは「自然な」（33.7%）でした。これはそのまま、SDGsへの取り組みを進める、企業イメージにもつながるものでしょう。今後、企業ブランディングの観点からも、SDGsへの取り組みを進めることはさらに重要になっていそうです。



今月のこの人

営業部

富田祥平さん

私は小学6年生と、中学2年生の息子がいます。学校教育の中でもSDGsを意識した授業、取り組みがされており、【社会】【経済】【環境】の3側面から世界を知ると共に、今の自分たちに何ができるのかなどグループでの発表がされているそうです。授業参観では今回の発行で記載されている物流に関して発表しており、どの様な運送方法があつて、年間の物量など調べると共に、利便性の裏にある環境問題なども調べていて、感心したのを覚えています。今の子供たちの世代は、教育のなかでSDGsに触れる事が多く、意識しなくても自然に繋がる行動が出来るようになるのかなとも思います。今できる事をコツコツと継続することが大事だと思うので小学校入学から6年になった今まで、同じ筆箱を大事に使っている息子を見習いたいと思います。

\* 次回はこの人 佐藤 多恵さん